

アルナーチャル・プラデーシュのブロッパの村を訪ねて

出張者（所属）：安藤和雄（京都大学東南アジア研究所）

●日程

2009年3月13日～24日 主要訪問国名など：アルナーチャル・プラデーシュ、カトマンドゥ

●行程

3月13日 関空ーバンコクーカルカッタ
3月14日 カルカッターゴウハティ（ゴウハティ大学地理学科）ービスナット・チャールアリ
3月15日 ビスナット・チャールアリーイタナガール（ラディブガンディ大学地理学科）
3月16日 イタナガールーボンディラ（ヒマラヤン・ホリデーズ）
3月17日 ボンディラ（ボンディラ博物館、ウエスト・カメング県統計局）ーディラング（ディラング・ゾン）
3月18日 ディラング（ブロッパの村調査、チャンダール村）
3月19日 ディラング（ブロッパの村調査、新メラックム村）ーボンディラ（ヒマラヤン・ホリデーズ）
3月20日 ボンディラーゴウハティ（ゴウハティ大学地理学科）ーカルカッターバンコク
3月21日 バンコクーカトマンドゥ
3月22日 カトマンドゥ（NGO マーチン・チョウタリー、環境と社会的ソフトウエアのワークショップ）
3月23日 カトマンドゥ（NGO のDWO,CDO、ICIMOD、チャール・ゴレ村）
3月24日 カトマンドゥーバンコク
3月25日 バンコクー関空

●報告



チャンダール村であった自称95歳の老人



ブロッパの冬の定着村・チャンダール村



カトマンドゥのタマン族の村で、堆肥づくり

今回の出張の目的は、①ラディブガンディ大学との学術協定の準備をつめを行う、②ウエスト・カメング県のディラング郡のモンパ族の中でも標高3000m以上で年間を通じて遊牧する民であるブロッパの冬の定着村を訪ね、医療班との共同調査村の候補地を定める、③医学班の現地調査の可能性について、ヒマラヤン・トラベラーズの社長であるワングさんと事前協議をすること、④標高2500m以下の畑（Un）を耕し、定住で暮らすモンパ族の中のウンパの畑を見て、ブロッパとの違いについて観察する、④ブロッパの老人と会う、⑤カトマンドゥで環境系のNGOのネットワークをつくる、⑥カトマンドゥ周辺の村の土地利用の観察と、ICIMODでの情報収集、であった。いずれの課題も達成することができた。

●特記事項

カトマンドゥ盆地の周辺の村でもディラングのウンパの村と同じようにカシの葉が利用されているが、常緑のカシであり、ヤギや牛の刈敷の後に堆肥化して畑に施されていた。